



# 翔鸞幼稚園のときめき・ひらめきミニエピソード

子ども達は、毎日目を輝かせ、心をときめかせながら、そして、時には大人をあっ！と驚かせるようなことをひらめきながら遊びを展開しています。このミニエピソードでは、子ども達がときめいたり、ひらめいたりしながら遊ぶことで育まれていく「資質能力」に着目して記述したいと思います。ぜひ、お読みください！

3歳児

「アオムシ、いるいる！」 R4. 10/6



園庭で、A先生がミカンの木にいたアオムシを見つけました。「アオムシさんがいるよ」という声を聞いて、子どもたちが駆け寄ってきました。「どこー？」と、枝葉と同じ緑色のアオムシは探すのが難しい様子です。「ほら、ここここ！」と指をさして伝え、「ほんまや！」「いるいる！」と、見つけれられたことを喜んでいました。そして、見つけた3匹のアオムシをひかり組で育てることに決めました。アオムシと図鑑を見比べて「今これや！」「こっちじゃない？」と話したり、そら組さんに「ツツンしたらオレンジの角が出るんやで」と教えてもらってツツンしてみたり。たっぷりの「好奇心」をもってアオムシと出会い、目をキラキラさせてときめくひかり組の子どもたちでした。

しかし、アオムシたちは、お休みの間に飼育ケースの隙間から逃げだしてしまいました。私も子どもたちも残念な気持ちでしたが、「おなかすいたのかな？」「新しい葉っぱが欲しかったんじゃない？」と、アオムシの気持ちを考える子どもたちの「優しさ」がとっても素敵でした。どこかで蛹になっていないかなあと、アオムシ探しが続いています。

4歳児

「うわぁ！！魔法の光や！」 R4. 10/19



虫の妖精になってごっこ遊びをすることが大好きな子ども達。『ギャングコウモリ』という悪いコウモリをやっつけるために魔法のスティックをつくって遊んでいました。自分で色々な材料を選んで、世界で一つしかない魔法のスティックをつくったA君。早速園内の色々な場所に出かけて魔法をかけに行きました。すると、お日様の光が魔法のスティックに当たると、なんとも言えない虹色の光が、床や壁、友達に映し出されて「うわぁ！！魔法の光や！」と大喜び！！スティックを揺らすと、魔法の光もユラユラ……。色々な場所で魔法の光を映し出して遊ぶ姿が見られました。

ごっこ遊びのアイテムの一つとして魔法のスティックをつくった子ども達。スティックに光が当たると、虹色の光の影が色々な場所に映しだされることにときめきを感じる姿が見られました。そして偶然に映し出された虹色の光が、『魔法』というファンタジーの世界とつながったことで、イメージしたことを友達と言葉で伝え合ったり、イメージを共有したりしていました。また、映し出された光の美しさや不思議さも感じていました。まさに遊びを通して科学する心の芽が育まれているのだなと感じました。

5歳児

「テントをつくろう」 R4. 10/14



「キャンプのテントをつくりたい！」と、大きな段ボール、長い芯、レジャーシートなどを使ってテントづくりが始まりました。段ボールを屋根にしようとガムテープで固定しますが、手を離すと倒れてしまいます。「なんでだろう…」と悩む子どもたち。「ここにも棒（支柱）がいるんちゃう？」とひらめいたAちゃん。「下がぐらぐらしてるから、テープで止めた方がいい」とBくん。「軽いから倒れちゃうし、重いものを乗せた方がいい」とCちゃん。バランスや柱の位置を考えていました。「じゃあここ持ってる！」「ここテープで止めるわ！」と力を合わせ、テントが完成しました。達成感をいっぱいを感じながら、手作りのバーベキューセットを置き、みんなでバーベキューを楽しみました。

「テントをつくりたい」というときめきに多くの子どもがときめき、「どうしたらテントが立つのか」ひらめきながら「試行錯誤」を重ねる姿が見られました。多くの子どものひらめきが混ざりあい、「試行錯誤」だけでなく、「予想」や「予測」、「目的の共有」、「協力」など、様々な資質能力が育まれていると感じました。

令和4年度研究主題

子どもたちが夢中になって遊ぶ保育を創る

～科学する心を育む教師の援助や環境構成について考える～